

日本大学生訪韓団に参加して 「嫌い」が「好き」に

日本国外務省と大韓国外交部は、大学生を対象とした招へい事業を相互に行っている。日本大学生訪韓団の目的は、韓国の様々な文化や歴史を学び、韓国の方々との交流をすると同時に、相互理解促進につながるような情報発信を行うことだ。記者は、日本全国430名の応募大学生の中から選ばれた28名の一員として9月19日から9月29日の10日間、日本大学生訪韓団に加わった。(文・写真 増田朱音)

1 見本として使用した日韓友好についてかかれた団員の絵馬。2 日韓交流おまつりのロゴ。3 浴衣を気に入ってくれた方との写真。4 おまつり開始前の集合写真。5 日韓交流おまつりフィナーレの『よさこいアリアン』では金色のテープが舞った。



今回、私は大学の電子掲示板で「日本大学生訪韓団」を知った。応募の理由は「ほぼ無料で韓国にいけるから」。他の団員のように、日韓友好を本気で考えていたわけでもなかった。ニュージランド研修のためにバスポートを初めて持ち、他の国にも行きたい!という勢いだけの応募だった。

応募後、毎年約10倍の倍率ということを知り驚き、「これは受かるのは不可能だろうな」と思いながら結果をまつた。

団員に選ばれたとき、私は喜びよりも恐怖のほうが強かった。

私は、辛いものは苦手です。食べられない。韓国語は一度も勉強したことがない。なにより、反日運動ばかりしているイメージの強い韓国のことが嫌いだ。だから、応募フォームにも、同じようなことを書いたから、なぜ選ばれたのかわからなかった。

今年の倍率は16倍。私も、りも日韓について考えている人がいたと思う。その人に申し訳なく思っ

た。

韓国でのプログラムの中で、私が一番忘れられないのが9月24日にソウルにて行われた「日韓交流おまつり」だ。今年も昨年同様6万人ものお客さんが来場した。このおまつりで日本大学生訪韓団は、4つのグループに別れブースを運営した。

私のグループでは、絵馬体験を行い、200人以上の人がブース遊びに来て

勢い任せの行動が 海の向こうに友人をつくってくれた

彼女だけではなく、ブース遊びに来てくれた人たちの多くが簡単な日本語を話すことができ、団員に話しかけていた。

ある女性は、日本の文化のアピールとして着ていた浴衣を気に入ってくれたらしく、「一緒に写真を撮ってほしい」と言われた。「とっても似合っている」と言われて、すこし照れくさかった。

おまつりのフィナーレでは、中央にあるステージ前に集まって、「よさこいアリアン」をパレード形式で踊った。

『よさこい』は高知県が発祥の地と言われ、現在は町おこしの原動力となっている歌。『アリアン』は韓国の民謡。労働者たちが故郷を思っ歌ったものだ。その2曲を組み合わせ、交互に歌いながら踊っていく。

ブースを運営していたボランティアや企業の人、お客さんが入り混じって歌い、踊る。大きな旗が振られて、金色のテープや紙ぶきが舞う。大人も子供も、よさこいの振り付けやリズムも気にせずにただ楽しんで踊る。そこには国籍や政治を気にする人はいなくて、皆笑顔だった。誰が日本人で誰が韓国人なのかわからなくなっていた。

私はそのとき、日本人も韓国人も大きな違いはなくて、絶対に仲良くすることができると確信した。

これからの日韓関係を明るく、私はこの経験を活かしたい。

彼女が抱につけていたゲーム『あんさんぶるスターズ!』のキャラクター大神晃牙のストラップがきっかけで私は彼女と友達になることができた。「日本のアニメやゲームは面白くてとっても興味深いです」と、日本語で話してくれた。来年の3月に日本に遊びに来てくれるので、また会う約束をした。海の向こうに友達がいるというのは、不思議な感覚だ。